

# Prevalence and Prediction of Allergic Rhinitis Using Questionnaire and Nasal Smear Examination in Schoolchildren

出典	Acta Otolaryngol Suppl. 1999;540:58-63. ( <a href="http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/10445081">http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/10445081</a> )	
著者	Okano M 他	
調査地域	岡山県	
調査時期	1992年、1995年	
調査対象	6～12歳（小学生）、12～15歳（中学生）	
依頼数	1992年：1092人、	1995年：463人
回収率	1992年：95.6%、	1995年：93.1%
診断方法	その他の調査票	
有症率	鼻炎	1992年：26.5% 1995年：22.5%
調査概要	岡山の小中学生を対象としたアレルギー性鼻炎と鼻好酸球量の調査論文。 鼻水の好酸球の増加は鼻炎症状に関与しており、鼻汁のスメア試験は アレルギー性鼻炎などの有用な指標になる得ると考えられる。	